

ひと夏に凜として

森野 水琴

ここは、とあるホテルのバー。
毎年の夏、長期滞在する男がいたのだが、今年は来ない。
当然、相手の女性も来ない。
今年は別の男が長期滞在しているようで、毎晩カウンター席で飲んでいる。
当店オリジナルのカクテル「ひと夏」に興味があるようで飲んでもらったところ、「もう少し凜とした味が増わるといいね」とのこと。
ペパーミントを加えてみると良い風味になった。

何かの発表会の帰りだろうか。ひとりの女性がカウンター席に座った。
凜とした感じの女性である。

うまく発表した自分への褒美として飲みに来たような感じである。

おすすめのカクテルがあればとのことなので、さり気なく男に合図しながら、ペパーミントを加えた「ひと夏」を勧めた。

満足な表情でカクテルの名を教えてほしいと言うので、「当店のオリジナル『かりん』です」と答えた。
会計を済ませ、「お先に失礼します」と男に会釈して女は帰った。

見送ったあと、「やはり凜とした女性に合うカクテルだね」と男は満足そうに微笑んだ。